



事務事業名	市営住宅建替事業（ストック住宅改善事業）	事務事業No.	50201000776	所属課	都市整備課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 住宅に困窮する世帯に低廉な家賃で住宅を供給することを目的とし戦後の住宅不足に対し開始されました。平成21年度より老朽化した公営住宅ストックについて予防保全的な維持管理を推進することにより公営住宅等ストックの長寿命化を図りライフサイクルコストの縮減を実現するために開始した。これまで市単独では予算を考慮し着手できなかった大型修繕事業を交付金を利用することにより計画的に行うことができ公営住宅の長寿命化を図りライフサイクルコストの縮減が出来るようになった。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 住民：入居者は、計画的に整備することによりライフコストの縮減にもなることから支持を受けている。 議会：大切な公共財産の長寿命化につながり、また交付金を利用していることなどから支持を受けている。					

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 快適で潤いのある居住環境づくりや、住居環境の一環に結びついている。
	②公共関与の妥当性（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称） <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 市営住宅を安全に使用できるよう管理することは妥当である。
	③成果の向上余地（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？） <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ・生活困窮者への新規供給 ・ストック住宅の長寿命化 ・ライフコストの削減
有効性	④廃止・休止の成果への影響（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？） <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ・入居待機者への新規供給がでない。 ・ストック住宅の長寿命化が実現できない。 ・ライフコストの削減ができない。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性（類似事業や統廃合の可能性はありますか？（市以外の取り組みも含む）） （他に手段がある場合） <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる ストックの過剰気味である民間賃貸住宅を借上げ、さまざまな理由の住宅困窮者に住宅を提供する。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地（成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？） <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ストックの過剰気味である民間賃貸住宅を借上げ、供給することにより市で所有している老朽化住宅を解体撤去でき、借地の返還に結び付けられる。国庫事業であるため、職員でなければならない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 入居者だけに受益のある事業であるが、公営住宅を整備することにより、周辺地区の環境整備にもつながる。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(2) 全体総括（振り返り、反省点） 平成19年以降、新規住宅の供給はないが、近年では平成25、26、27、28年度（外壁改修事業：3住宅120戸）と大規模な修繕を行った。平成30年度は犬田住宅（屋根及び外壁改修事業：1号棟）、平成31年度に2号棟の改修を行った。令和3年度に3号棟改修予定。																							
(3) 今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(4) 改革・改善による期待成果（終了・廃止・休止の場合は記入不要） <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th rowspan="2">向上 維持 低下</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	成果	向上 維持 低下	コスト			削減	維持	増加				○											
成果	向上 維持 低下			コスト																				
		削減	維持	増加																				
			○																					
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 平成30年度に犬田1号棟の改修工事を行い、令和元年度に2号棟の改修工事を行った。令和3年度に3号棟の改修工事を予定している。																								
(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価 課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A：継続（現状維持） B：継続（改革改善を行う） C：終了、廃止、休止 D：2次評価へ提出	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合） 確認欄 <input checked="" type="checkbox"/> 確認
---	--